



(題字は初代学長 山田守英氏)

# 第 157 号

平成26年12月15日

編集 旭川医科大学  
発行 教務部学生支援課



「紅葉ダウンリバー（額平川）」

(写真提供：雪艇倶楽部（カヌー部）)

Poster Presentation at AACR 2014	学内体育大会が開催されました……………14
医学科第5学年 日比野幸子……………2	野球場のベンチが新しくなりました……………14
異国の地で感じたこと	課外活動物品の購入補助を行いました……………14
医学科第4学年 久司 一貴……………3	双方向遠隔授業システムを用いた単位互換制度について……………15
熱帯医学を学ぶ意義	卒業生の動向（医学科）……………16
-Elective Program in Tropical Medicineへの参加報告-	卒業生の動向（看護学科）……………17
医学科第3学年 橋本 亮……………4	授業評価（平成26年度前期）……………18
外国人留学生交流事業……………5	感染対策と自分を大切にすること
平成26年度解剖体慰霊式……………7	（保健管理センター）……………38
平成26年度医学科第2学年後期編入学生入学式……………8	冬季休業期間中の事故防止について……………39
人命救助による表彰を行いました……………8	駐車場の利用マナーについて……………39
学生表彰式……………9	教員の異動……………40
AMU DANCE CRANK活動報告……………10	今後のスケジュール……………40
音楽系団体による院内コンサート……………11	第157号表紙……………40
北海道地区大学体育大会 男女ともに総合優勝！…12	

## Poster Presentation at AACR 2014

医学科第5学年 日比野 幸子



2014年4月、アメリカのサンディエゴで行われた「Annual Meeting of American Association for Cancer Research(AACR) 2014」に参加し、ALK陽性肺癌に対する分子標的薬のひとつであるアレクチニブに対する耐性機

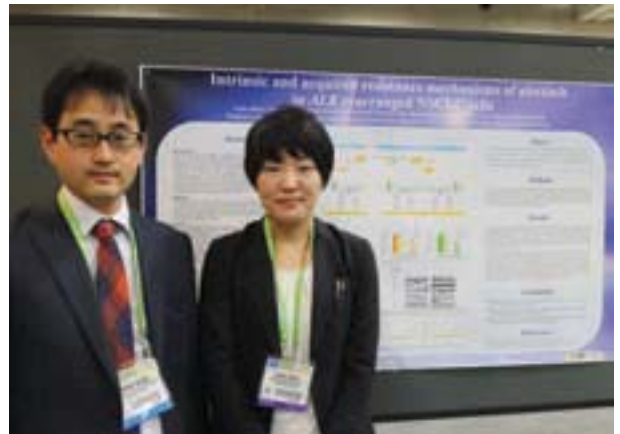
序について、ポスター発表を行いました。

はじめに、今回の発表に至った経緯をお話させていただきます。私は2011年に本学に編入しました。それまでは、Murray State University(米国, KY)の哲学科を卒業して出版社で編集者として働き、研究とは程遠い世界にいました。しかし授業やセミナーで研究にふれるうちに、「研究を通して、学生のうちに科学的なコミュニケーション能力、考察力、国際感覚を身に付けることができるのではないか」という”仮説”に至りました。そこで呼吸器センターの大崎教授、佐々木高明先生のご指導のもと研究を開始し、この度AACRでポスター発表するに至りました。

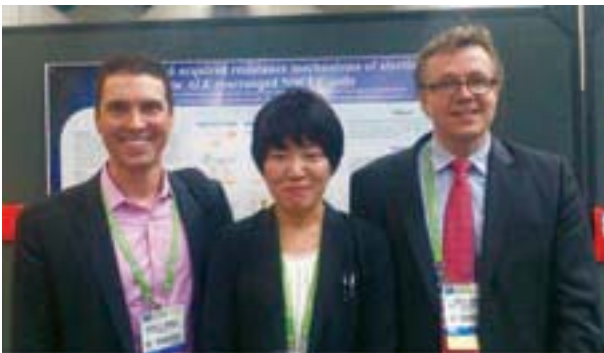
ポスター発表は4時間与えられ、立ち寄って下さった方とDiscussionするという仕組みでした。4時間の間に国内外の肺癌研究・臨床の先生方、企業の方々など多くの方にコメント・質問を頂き、自分のデータを見てもらいDiscussionすることの楽しさを実感することができました。初めての学会発表で未熟なプレゼンでしたが、様々なパターンを試したり、相手に合わせて変えるようにしたりと試行錯誤したことも、次に繋がる良い経験となりました。更に、オフの場で呼吸器センターの

先生方や、肺癌で世界的に有名な先生方とお話する機会を頂き、医療や研究に対するお考えを拝聴できたことも貴重な経験となりました。前述の”仮説”を立証するには至っていませんが、この2年間でその見本となる方々に出会えたことが財産となりました。今後は肺癌を専門とした腫瘍内科医を目指したいと思います。リチャード=ハミングが述べるような「重要で困難な問題を易しいがなお重要な問題に転換できる」医師となり、患者さんの抱える問題、医療・社会が抱える問題に取り組んでいきたいと思っています。

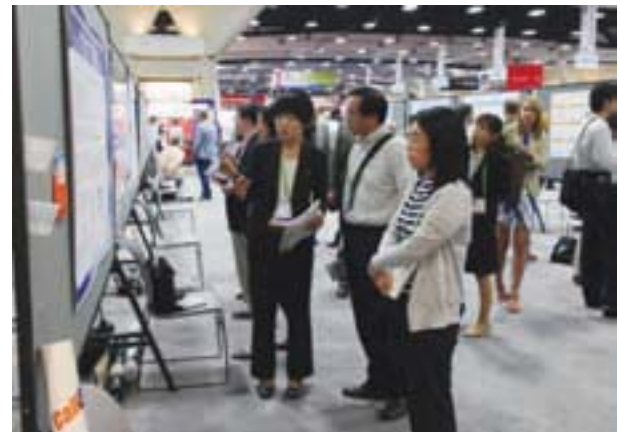
最後になりましたが、貴重な機会を下さいました大崎教授、お忙しい臨床の合間を縫ってご指導下さった佐々木先生にこの場を借りて深く御礼申し上げます。また、経済的なサポートを頂きました呼吸器センターおよび旭川医科大学、手続きに際しご尽力頂きました学生支援課の職員の皆様に深謝申し上げます。



▲指導医の佐々木先生とポスターの前で



▲Dr. Janne (Dana-Farber Cancer Institute) と Dr. Doebele (University of Colorado)



▲プレゼン中



## 異国の地で感じたこと

医学科第4学年 久 司 一 貴

インドという国はとにかく汚い、臭い、暑い。人によって好き嫌いが極端に分かれそうな世界が広がっていました。人々は親切で世話好きで良い人ばかりなのだが、寛容になりすぎると少し厚かましく感じる、といったような具合です。

今回、私は民営のボランティア団体を通じて、このインドにボランティア経験という形で参加させていただきました。初めての一人での海外渡航となったわけですが…平日は団体が用意してくれたプロジェクトに従って、様々な活動をしました。ある日は孤児院に行って、子供たちと遊んだり、清掃したり、模様替えを手伝ったり。ある日は現地の学校に出向いて、健康診断のお手伝いを。ある日は病院での総回診で唐突な質問に、まず英語を理解できずにうろたえたり、手術を見せても



らったり。

毎日が新鮮で刺激的でした。“インドという土地柄”と“英語という言語”に徐々に順応していく自分がいてとても楽しかったです。

「将来的に国際貢献してみたい」そんな思いがあって、このプロジェクトに参加しました。日本とは違う世界に身を置くことがどんなものなのか？はたまた、自分はそういったところでやっていくことができるのか？それらを少しでも知りたかったのです。

結果、‘やってみたいという気持ち’は‘やってやるという気持ち’の方が強くなりました。価値観や生活レベルが全く違う環境で医療行為をすることは、一步間違えれば自分の独りよがりになりかねません。そうならずに現地に溶け込むことは簡単ではないと思います。でも、そういった駆け引きの中で、「やっぱり日本人の医者がこの場所にいてくれてよかった」そんな風に言われるような存在になりたいです。

でも同時に、それまでに語学を克服しなければならないとも感じました。いくら医師としてのスキルがあっても、やっぱり語学力がなければ、かえって周りの人たちに迷惑をかけてしまうということを実感したからです。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった旭川医科大学、ならびに関係者の方々には大変感謝しております。今回の経験を通じて、新たな意欲を持って、勉学に励むことができるようになりました。



## 熱帯医学を学ぶ意義

### —Elective Program in Tropical Medicine への参加報告—

医学科第3学年 橋本 亮

私は、2014年8月4日～8月29日にタイのマヒドン大学主催で行われましたElective Program in Tropical Medicineに参加させていただきました。ここでは、プログラムの概要をご紹介させていただきます。拙稿をご覧のご父兄の皆様、学生読者の皆様が来年度以降の参加を検討していただけるよう、参考になれば幸いです。

本プログラムは以下のような日程で行われました。まず、前半2週間では、タイの首都バンコクにあるマヒドン大学において、座学講義と病棟回診を中心に熱帯医学の総論および各論（マラリア、デング熱、HIV/AIDSなどの感染症学、皮膚科や小児科領域における熱帯病の症候学など）を学びました。その後、タイ南部の地方都市ラノンRanongに移動して、後半2週間は中核病院である公立ラノン病院での病棟回診や手術、外来、派出診療所での診察などを見学しました。前半の大学付属病院での病棟回診では、実際にデング熱やマラリアなどの患者を診察する機会があり、時には、問診、触診や画像読影も求められ、それに基づいて症例をディスカッションすることもあり

ました。これは、英語によるコミュニケーションレベルという点で、留学前に予想していたよりかなり高い水準でしたが、非常に実践的な学習機会であり、臨床実習が始まる前の3年生では貴重な体験になったといえます。後半の実習が行われたラノンはミャンマーとの国境に位置し、文化的多様性や自然環境に恵まれた地域です。病院実習のなかで、HIV/AIDS外来を見学させていただきましたが、老若男女が外来に押し寄せる光景から、タイの成人人口の1%がHIV感染陽性といわれる深刻さが窺えました。

折しも日本では約70年ぶりにデング熱が発生し、西アフリカではエボラ出血熱が流行していました。グローバル化著しい昨今、熱帯病は全世界的な問題であり、熱帯医学を学ぶことは将来日本で医療活動を行う上でも非常に有益であると思います。

最後になりますが、このような貴重な機会を物心両面で支援していただいた旭川医科大学の皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



▲プログラム参加者



▲HIV/AIDS 病棟回診



▲寄生虫実習風景



▲病院食道にて



▲結核外来の前に



## 平成 26 年度 外国人留学生交流事業を実施しました

平成26年度の外国人留学生交流事業が、8月1日（金）・2日（土）の2日間の日程で、本学に留学している学生と研究者として在籍する外国人及び関係職員の5カ国、計12名が参加して実施されました。

この事業は旭川市内近郊だけではなく、北海道内の名所を外国人留学生及び帯同されている家族の方々に観てもらい、北海道の良さを再認識してもらうとともに、様々な国から来日されている留学生同士の交流及び外国人留学生と職員との交流を図ることを目的としたものです。

当日は、午前10時に旭川を出発し、バスの中で昼食を済ませ、昼過ぎに南富良野に到着し、空知川でラフティングを行いました。

この日は快晴で、気持ちよい日差しの中コースを進み、途中で飛び込み岩からジャンプしたり泳いだり、存分に楽しみ、団結が強まりました。

美しい自然の中を流れる空知川の水は冷たく澄んでいて、暑さを吹き飛ばすことができました。

夕方に宿泊施設である新富良野プリンスホテル

に到着し、周辺の散策にでかけました。

ニングルテラスでは、森の中のゆったりとした空気の中、ゆっくりとショッピングを楽しみました。

夕食の後には交流会が実施され、普段は話をする機会の少ない留学生と教職員とも、とても和やかな雰囲気の中で情報・意見交換が行われました。

翌日は、午前中に富良野チーズ工房でアイスクリーム作りを体験しました。

自分で作ったコーンに全員で作ったアイスクリームをのせてとてもおいしくいただきました。

フラノマルシェに行った後、昼食をとり、大学への帰り道の途中で富田ファームに立ち寄りしました。

入り口にはおいしそうなメロンがあり、少し歩くと色鮮やかな花畑があり、目で楽しむことができました。

午後3時に本学に到着し、外国人留学生交流事業が無事終了しました。



▲参加者全員での記念撮影





▲フラノマルシェにて



▲▼交流会の様子



▼富良野チーズ工房にて



▲空知川でのラフティング



富田ファームにて▶

## 平成26年度解剖体慰霊式を執り行いました

9月17日（水）午後1時30分から本学体育館において、御遺族と御来賓及び教職員・学生合わせて約350名が参列し、平成26年度旭川医科大学解剖体慰霊式を執り行いました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊いご遺体を提供され、医学発展の礎となられた方々の計235霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長と学生代表（医学科第3学年立花史音）から追悼の辞が述べられました。

その後、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

### 追悼の辞

学 長 吉 田 晃 敏  
学生代表 医学科3年 立 花 史 音

### 献 花

学 長 吉 田 晃 敏  
学生代表 医学科3年 立 花 史 音  
医学科3年 川 尻 はるな  
看護学科2年 合 田 奈 央  
看護学科2年 和 田 薫 奈

### 謝 辞

解剖学講座教授 吉 田 成 孝



▲学長による追悼の辞



▲学生代表による追悼の辞



▲献花



## 平成26年度 医学科第2年次後期編入学生入学式



平成26年度医学科第2年次後期編入学生入学式が平成26年10月1日（水）に事務局第一会議室におきまして執り行われました。

当日は吉田学長より編入学生に対して祝辞が述べられ、新たに10名が旭川医科大学学生としての第一歩を踏み出しました。

入学式に引き続き、学年担当教員やグループ担任教員等によるガイダンスが行われ、編入学生は緊張した様子で熱心に耳を傾けていました。

最後には、昨年度の編入学生10名との交流が行われ、先輩学生から、勉強と部活動の両立の仕方等さまざまなアドバイスを受けると、新入生達はようやく緊張が解けたのか、期待に満ちた満面の笑みをのぞかせていました。



## 人命救助による表彰を行いました

平成26年10月14日（火）に本学第一会議室におきまして、本学手術部主任臨床工学技士の成田孝行さん、医学科第4学年恒川良兼さん、医学科第2学年別宮史子さんと吉田晶琢さんの4人に対し、職員表彰及び学生表彰が行われました。

これは、平成26年5月9日（金）午後9時頃、旭川市内において、心肺停止状態で倒れていた男性を発見し、救急隊が到着するまでの間、4人で

協力して心臓マッサージを行うなど、迅速かつ的確な処置をもって救命に尽力したことに対する表彰です。

表彰式は、役員の列席のもと行われ、4人の行動は他の職員及び学生の模範となるものとして、その功績を称え吉田学長から表彰状の授与と記念品の贈呈が行われました。





# 学 生 表 彰 式

平成26年9月30日（火）、本学第一会議室におきまして、課外活動、社会活動、学術研究活動で特に顕著な成果をあげた学生及び学生団体に対する学生表彰が行われました。

表彰式は、役員列席のもと、吉田学長から7名、7団体に対し表彰状の授与と記念品の贈呈が行われ、「皆さんの更なる活躍を期待したい。」と激励の言葉が贈られました。

受賞者の一覧は以下のとおりです。

## ＝課外活動による表彰＝

- ・バドミントン部男子  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
男子団体戦優勝
- ・柔道部男子  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
男子団体戦準優勝
- ・柔道部女子  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
女子団体戦優勝
- ・男子バレーボール部  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
男子団体戦優勝
- ・剣道部男子  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
男子団体戦準優勝
- ・陸上競技部女子  
第60回北海道地区大学体育大会  
女子総合第1位
- ・医学科第2学年 阿部史華  
第56回東日本医科学生総合体育大会（弓道）  
女子個人戦優勝

- ・医学科第5学年 忠鉢敏弥  
第56回東日本医科学生総合体育大会（空手道）  
男子個人形優勝
- ・医学科第3学年 飯田敏史  
第56回東日本医科学生総合体育大会（柔道）  
男子個人戦66kg級優勝
- ・医学科第4学年 小林亜莉沙  
第56回東日本医科学生総合体育大会（柔道）  
女子個人戦優勝
- ・医学科第2学年 澁谷匠  
第56回東日本医科学生総合体育大会  
（陸上競技） 男子円盤投第1位
- ・平成25年度卒業生 蛭子井愛  
第25回北日本医科学生陸上競技大会  
女子100mH第1位  
第60回北海道地区大学体育大会  
女子200m、女子400m各第1位

## ＝社会活動による表彰＝

- ・放送研究会  
あさひかわイメージアップ動画コンテスト  
2013 最優秀賞

## ＝学術研究活動による表彰＝

- ・医学科第4学年 潮田亮平  
第111回日本内科学会総会・講演会サテライト  
シンポジウム  
「医学生・研修医の内科学サミット2014」  
優秀発表賞  
「医学生・研修医の内科学サミット2014」  
Meet The Professional  
優秀発言賞



## 『AMU DANCE CRANK 活動報告』

こんにちは！旭川医科大学ダンス部CRANKです！よろしくお願いします。

初めて耳にされる方も多いと思いますが、私たちはhiphop,jazz,house,lock,girlsなどといった多ジャンルのダンスを、様々なイベントに向けて日々練習しています。結成されてまだ3年目なのですが、現在部員は59名！今年は、20人近くの1年生が入部してくれたこともあり、旭医の中ではかなり人数の多い部活です。笑いが絶えず、先輩・後輩・同期の仲が良く、まるで家族みたいです。そして、集中するときは一瞬で切り替えることが出来るのもまたCRANKの自慢できるところです。ダンス以外にも、春には花見をしたり、夏には学祭発表をしたり、みんなで部旅行に行ったり(今年はルスツで遊びました！)、秋にはハロウィン仮装大会やCRANK大運動会が開かれたり、冬にはクリスマスパーティーや忘年会などがあり、レジャーも全力で楽しみます！

また、他大学との交流も盛んなため、ダンスを通して北海道の各地にダンス仲間をつくる事が出来ます。例えば、1年に2回、ダンス合宿が開催されます。これは、各地から多くのダンサーが集まって、各ジャンルのインストラクターの方のレッスンを2泊3日にわたって受け、みんなでダンス練習をするという大きなイベントです。

他には、年に1回開かれる札幌医科大学・北海



AMU DANCE CRANK

道医療大学との合同練習や、名寄で開催される『CAS!!』、他にもたくさんのイベントがあります。そして、合同イベントといえば、つい先日、11月8日に永山公民館にてCRANK主催の『CRANK自主公演』を開催しました。このイベントは今回が初めてで、教育大学旭川校・旭川大学・名寄市立大学の3大学と、北海道内からゲストをお招きし、私達ダンス部とゲストの方々のダンスショーケースを発表しました。たくさんの方がこのイベントに足を運んでくださり、「素晴らしかった。来年もまた見に来たい。」というお声を頂きました。

私たちにとってダンスとは、人に感動や希望を与えたり、人とつながることが出来る素敵な存在です。これからも一人一人がスキルアップを目指し、CRANK全体の成長につなげていきたいと思っています。







## 音楽系団体による院内コンサート



去る11月2日（日）にJAZZ研究会によるロビーコンサート「丘の上のJAZZ」が開催されました。

また、11月15日（土）には室内合奏団・ブラスアンサンブル・ピアノ部合同の秋の小編成コンサート、翌16日（日）にはギター部によるオータムコンサートが旭川医科大学病院玄関ホールで開催され、入院されている方々やお見舞いにお越しの方々、そして友人たちが会場に詰めかけ、美しい音色に酔いしれながら、秋の午後のひと時を過ごしていました。



（ギター部は夏のコンサートの様子です。）

## 北海道地区大学体育大会 男女ともに総合優勝！

7月4日(金)から7月21日(月)の日程で第61回(平成26年度)北海道地区大学体育大会が行われ、北海道の国公私立大学18大学から約1,700人の学生が出場し、11競技で熱戦が繰り広げられました。

本学はバレーボールの分担大学となり、7月20日(日)・21日(月)旭川市総合体育館においてバレーボール大会を開催しました。本学男子バレーボール部、女子バレーボール部の部員達は、前日の夕方から準備を始め、大会当日の2日間も手際よく運営し

てくれました。旭川市総合体育館には、学生のご家族・友人も多く駆け付け、観客席から大きな応援をいただいたおかげで、男子バレーボール部が見事優勝を果たすことができました！

また、他の競技においても、学生たちの健闘により、男女ともに総合優勝を勝ち取ることができました!!

大会結果は、下表のとおりです。

第61回(平成26年度)北海道地区大学体育大会 種目別上位成績表

	男 子			女 子		
	優勝	準優勝	第3位	優勝	準優勝	第3位
総 合 成 績	旭川医科大学	北教大旭川 札幌医科大学	/	旭川医科大学	北教大旭川	北海道大学
陸 上 競 技	北教大岩見沢	旭川医科大学	北教大旭川	北教大岩見沢	旭川医科大学 武蔵短大	/
硬 式 野 球	北海道大	北教大岩見沢	北教大旭川 釧路公立大	/	/	/
準硬式野球	札幌医科大学	北海道大	北教大札幌 小樽商大	/	/	/
バスケットボール	北教大岩見沢	北教大札幌	北海道大 小樽商大	拓殖短大	北海道大	北教大旭川 國學院短大
バレーボール	旭川医科大学	北教大釧路	北教大旭川 室蘭工大	北教大旭川	北教大釧路	名寄市立大 武蔵短大
サ ッ カ ー	苫小牧駒沢大	旭川医科大学	北教大旭川 帯広畜産大	/	/	/
バドミントン	北教大旭川	北教大函館	北見工大 はこだて未来大	/	/	/
剣 道	旭川医科大学	苫小牧駒沢大	札幌医科大学	/	/	/
弓 道	北海道大	札幌医科大学	帯広畜産大	旭川医科大学	北海道大	小樽商大
ハンドボール	札幌医科大学	旭川医科大学	室蘭工大	/	/	/





## 学内体育大会が開催されました

平成26年8月28日（木）に学生会主催の体育大会が開催されました。

お盆も過ぎ、開催日前日までは肌寒い日が続いていた旭川ですが、体育大会当日は、25度まで気温が上がり、強い日差しのなか、汗だくになりながらも、日頃の運動不足やストレスを解消するかのような熱戦が繰り広げられました。

今年の大会も例年と同様に、バスケットボール、



バレーボール、ソフトボール、サッカーの4種目の競技が企画され、授業ではなかなか見られない生き生きとした学生の姿に、日々の勉強や前期試験週前の束の間の休息を楽しんでいる印象がありました。

競技終了後には、学生食堂において交流会が開催されました。



## 野球場のベンチが新しくなりました！

風雨や雪の影響で一部が腐りボロボロの状態だった木部部分をすべて取り外し、これまでの下台はそのままに、新たにトドマツ材を使用したベンチに生まれ変わりました。

これから雪の季節に入るため、野球部員が一生懸命ブルーシートでベンチを保護してくれました。

来年は、他大学との交流試合も増えそうですね！



## 課外活動物品の購入補助を行いました

この度、申請依頼があった18団体に対し、活動に必要な備品購入の補助を行いました。長年の使用により劣化した楽器やボール類、部員が増えたために新たに必要になった鏡や花器など様々な申請がありました。

新しい備品を受け取った学生たちは、クリスマスプレゼントをもらった子供たちのように満面の笑みを浮かべていました。。





## 双方向遠隔授業システムを用いた単位互換制度について

北海道内の国立大学が連携を図り、遠隔授業や単位互換制度を利用して学部学生が受講可能な新たな仕組みを構築し、教養教育の充実強化を図ることを目的として、平成26年2月28日に単位互換協定を締結しました。この協定の締結により道内の他の国立大学が提供する教養教育の一部について単位互換を行い、他大学の授業科目を本学の単位として認定することができます。

具体的には、平成26年度後期より「双方向遠隔授業システム」というテレビ会議システムを利用して、学生が本学にいながら他大学の講義を受講できたり、本学で行っている講義を他大学の学生が他大学にいながら受講可能となっており、本システムの活用により、学生がバラエティに富んだ多様な授業の履修ができるようになっています。

平成26年度後期はトライアルとして、北海道大学の講義「環境と人間（海のふしぎ）」を1科目受信、本学の講義「青少年文化論」を1科目北海道大学に配信しており、平成27年度より本格実施の予定となっております。本事業の本格実施により更なる教養教育の充実強化が期待されます。



▲本学講義を配信している様子

# 卒業生の動向(医学科)

平成26年3月25日(土)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成25年度		
			男	女	計
進 学	道 内		0	0	0
	道外その他		0	0	0
	小 計		0	0	0
就 職	道 内	旭川医科大学病院	18	9	27
		旭川厚生病院	4	2	6
		名寄市立総合病院	3	0	3
		北海道大学病院	0	2	2
		その他	12	4	16
	計		37	17	54
	道 外	大学関係病院	2	1	3
		上記以外の病院等	21	6	27
	計		23	7	30
	小 計		60	24	84
未 定 ・ そ の 他			13	1	14
合 計			73	25	98

## 上記以外の病院名

道 内：市立旭川病院、旭川赤十字病院、滝川市立病院、札幌厚生病院、遠軽厚生病院、旭川医療センター、市立稚内病院、KKR札幌医療センター、勤医協中央病院、恵み野病院、札幌徳州会病院、釧路労災病院、北海道社会保険病院

道 外：東京大学医学部附属病院、金沢大学附属病院、大阪市立大学病院、県立中部病院、八戸市立市民病院、横浜医療センター、石巻赤十字病院、天理よろづ相談病院、岩手県立中央病院、国立国際医療研究センター国府台病院、ひたちなか総合病院、淀川キリスト教病院、名古屋徳州会総合病院、倉敷中央病院、さいたま医療センター、近江八幡市立総合医療センター、杉田玄白記念公立小浜病院、中部徳州会病院、中東遠総合医療センター、岸和田徳州会病院、国保旭中央病院、千葉西総合病院、大崎市民病院、市立敦賀病院、トヨタ記念病院、京都市立病院、長岡中央総合病院



## 卒業生の動向(看護学科)

平成26年3月25日(土)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成25年度		
			男	女	計
進 学	道 内	札幌医科大学他	0	3	3
	道外その他		0	0	0
	小 計		0	3	3
就 職	道 内	旭川医科大学病院	8	21	29
		北海道大学病院	0	3	3
		N T T東日本札幌病院	0	3	3
		森産婦人科病院	0	3	3
		その他	1	16	17
	計		9	46	55
	道 外	大学関係病院	0	3	3
		上記以外の病院等	0	6	6
	計		0	9	9
	小 計		9	55	64
未 定 ・ そ の 他			1	2	3
合 計			10	60	70

### 上記以外の病院名

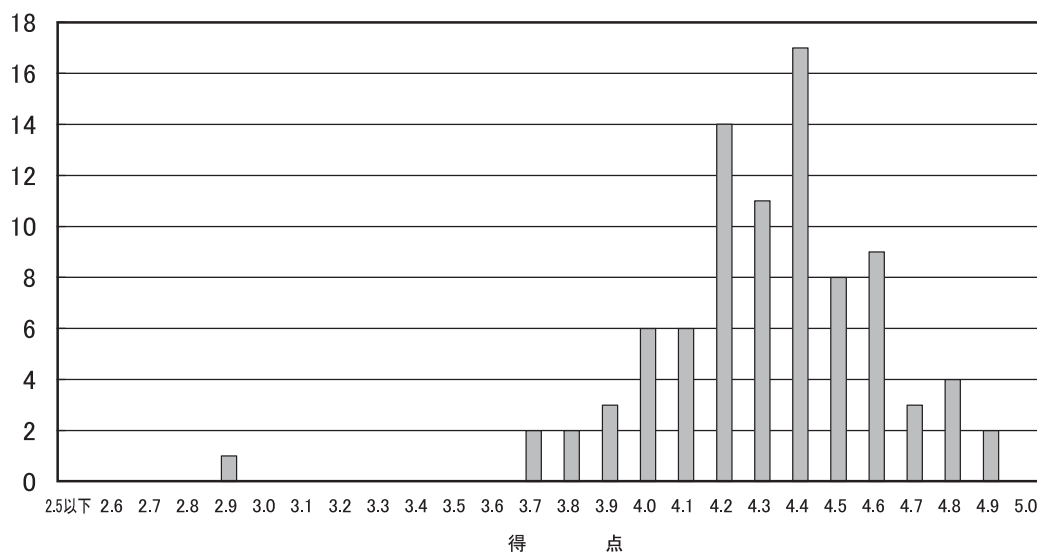
道 内：北海道社会保険病院、市立稚内病院、札幌白石記念病院、札幌東豊病院、帯広厚生病院、イムス札幌消化器中央総合病院、札幌徳州会病院、北海道医療センター、市立札幌病院、札幌社会保険病院、愛心メモリアル病院、中富良野町、余市町、沼田町、天塩町、留萌市、苫小牧市、中標津町

道 外：東京大学医学部附病院、順天堂大学病院、東海大学医学部附属病院、板橋中央総合病院、横須賀市立市民病院、墨東病院、横須賀市立うわまち病院、東名厚木病院

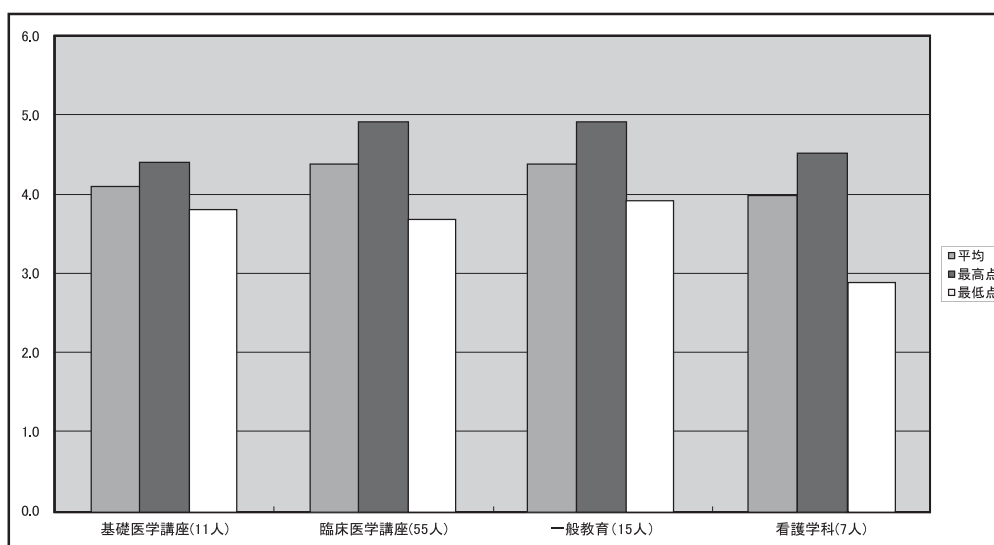
## 平成26年度前期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得										点														
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9
	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	3	6	6	14	11	17	8	9	3	4	2	0

(実施人数88名 平均4.3)



### 部局別教員の平均点と最高・最低点



### 講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)



## 科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目達成	問5 科目全体の到達目標を最終的に達成することができましたか。
科目内容	問6 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。 問7 科目を履修することで、今後の学習意欲は増しましたか。
総合評価	問8 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)  
 ④ やや思う (良い)  
 ③ どちらとも言えない (普通)  
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)  
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：自然科学入門（化学）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：2 配付数：2 回収数：2 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.0	5.0	4.5	4.0	4.5	4.5	4.5	4.5

**\*評価に対するコメント**

自然科学入門（化学）担当教員

今年度は受講した学生が2名ということもあり、講義中の対話を増やすことで、学生の理解度を把握しながら講義を行うことができた。講義では高校化学を薄く広く復習するのではなく、今後の基礎生化学の講義内容の理解につながる基礎的な考え方の理解に重点を置いた。結果的に学生は高校化学で疑問を抱いていた部分をよく理解することができ、これが昨年度よりも高い評価につながったと考えている。

科目名：自然科学入門（生物）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：80 配付数：74 回収数：69 回収率：93.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.8	4.1	3.0	3.6	3.4	3.6	3.8

**\*評価に対するコメント**

自然科学入門（生物）担当教員

本講義は、高校生物の補習を通して、生物学的なものの考え方を身につけることを目的としている。受講者の1割弱が、科目全体の難易度が適切でない（問6）と感じていたようだが、質問にくる学生の様子や寄せられたコメント内容から、講義内容については、易しいと感じていたり難しいと感じていたり様々であった。今年は2回の筆記試験を行い、合格点に満たなかった学生に対しては勉強方法等の指導や口頭試問を行った。

科目名：自然科学入門（物理）（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：30 配付数：29 回収数：27 回収率：93.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.6	4.0	3.1	3.6	3.1	3.1	3.4

**\*評価に対するコメント**

自然科学入門（物理）担当教員

総合評価はここ数年3.5前後です。今年から評価項目が変更になったが、ほぼ例年と変わらぬ評価だった。改善すべき点は例年と同内容の講義であったにもかかわらず、0.2減少した問6の項目（難易度）です。本科目は主に物理未履修者を対象としたリメディアル科目であり、今後の講義科目に必要な最小限の知識習得を目指す。そのため、難易度の評価が下がったのかもしれない。開講期間は短い在必死に学んで欲しかった。

科目名：地域医療学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：105 回収率：93.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.7	3.8	2.5	3.6	3.9	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

地域医療学 担当教員

医療の話は1学年では本授業でしか学ぶ機会がないため、学生にとっては貴重な機会であるという感想が多い。それに答えるべく、座学は北海道の地域医療現場での真の経験に基づく講義を行うようにしている。また地域医療に関するシナリオを使い、ロールプレイと討論を行うという時間も設けている。様々な価値観を互いに共有し、またそれによって自分達が将来どんな形で地域医療に貢献できるかを考えるきっかけになるものと思われる。

科目名：医療概論1（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：112 配付数：112 回収数：112 回収率：100%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.4	3.7	2.7	3.5	3.5	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

医療概論1 担当教員

特にコメントは無い。筆者の講義が拙かったからなのか、やる気の無い学生が多かったからなのか、よくわからないが、例年より評価は低かった。要するに教員と学生との間の年の差が開きすぎたのであろう。この科目は来年度までは筆者が担当するが、再来年度以降は学内の有望な若手（MD）が担当するよう調整を開始した。

科目名：情報統計学（医学科第1学年前期／必修）

履修者数：113 配付数：107 回収数：93 回収率：86.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.4	3.8	3.0	3.1	2.8	3.1	3.5

**\*評価に対するコメント**

情報統計学 担当教員

問6は昨年度に比べて約1ptも低く、これが総合評価（問8）の0.5pt減（H25年比）の要因の1つと受止めています。

また問2、3が比較的高く、問1、4が低い傾向が続いており、予習復習もせず、出席さえすれば単位取得できるという心構えの学生が多いことを示しています。来年度はまず、この傾向を改善し、授業中、フォローアップでいただいた意見も参考にして全体の質を高めていきます。今年度のコメントとして、昨年度の1年生と比べて、今年度は医学生集団としての気迫不足という印象があることを加えておきます。

今後、統計学を復習される機会があれば、質問には対応しますのでお尋ねください。



科目名：心理学（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：113 配付数：107 回収数：93 回収率：86.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.6	4.4	3.8	3.0	3.1	2.8	3.1	3.5

**\*評価に対するコメント**

心理学 担当教員

本講義の目的は、全人的な医療に必要な心理学の基礎知識を修得することである。講義は基礎心理学・臨床心理学・発達心理学の3分野から構成されている。

予習と復習についての評価は2.3、2.4という低い結果であった。従って、今後は予習・復習についてのきめ細かな指導が必要であると思われる。

一方、難易度と学習意欲についての評価は3.8、3.9とある程度高い結果が得られた。また、全体的な満足度は4.2と高い結果であった。これらの理由としては、各分野の知識を精査して講義を構成したこと、授業内容のプリントを毎回配布したこと、実験や心理検査を取り入れたこと等が考えられる。

一方、科目全体の目的到達についての評価が3.3であったことから、今後の課題として目的の精緻化と明示方法について改善する必要があると思われる。

科目名：生化学1（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：126 配付数：126 回収数：115 回収率：91.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.5	4.2	3.6	3.6	3.5	3.4	3.5	3.8

**\*評価に対するコメント**

生化学1 担当教員

生化学1は、生化学2および機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点として、また生化学実習のための基本を学ぶ科目としての意義を持たせてあります。複雑な代謝反応とその制御、それらの異常による病態発症など、生命現象を分子レベルで理解する“生化学”の重要性を認識し興味を持って学習できるように継続的に改良しています。講義ごと的小課題により重要ポイントを復習することや、講義日程終了後でしかも生化学実習の開始前に単位認定試験を実施するなどの工夫により学習効果があがるよう企画しています。授業評価では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が低く（2.5、3.6）こと、再試験対象者も極めて多い（31名）ことが極めて残念です。今後、各自の発奮を期待します。学生の皆さんには、日々の予習・復習及び小課題レポート提出など、自学自習の習慣を身に付けさらに徹底していただきたいと思います。

科目名：生化学2（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：126 配付数：126 回収数：117 回収率：92.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.3	3.9	3.5	3.7	3.2	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

生化学2 担当教員

生化学2は生化学1の内容をさらに発展させて代謝とその異常による病態を一連の講義展開により分子レベルで理解できるように、そして機能形態基礎医学など一連の基礎医学系科目の出発点となるようにカリキュラムを組んでいます。毎回の講義では小テストやレポート課題により重要ポイントを復習して各自が学習効果を高められるよう企画しています。授業評価では問1と問4（自身の予習・復習）の評価点が低く（3.0、3.5）残念です。また、これまでの授業評価点や自由記載など、先輩方の意見を取り入れて配布資料や授業方法などの改良に取り組んだ結果、問6の難易度の評価点は年々上昇していたのですが、今年度は顕著に低下してしまい（3.2）極めて残念です。本科目の内容は、生命現象を分子レベルで学ぶものであり医学の基礎を成すものです。生化学1やこれまでの講義科目に比較して分量や難易度が増していると感じることはあるかもしれませんが、本科目習得の重要性と今後展開される基礎および臨床医学の学習に備えるためにも、予習・復習及び小課題レポート提出など、日々の自学自習の習慣を身に付け、さらに徹底していただきたいと思います。

科目名：医療概論2（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：125 配付数：120 回収数：70 回収率：58.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.7	3.5	3.0	3.3	3.5	3.2	3.5

**\*評価に対するコメント**

医療概論2 担当教員

医療や臨床研究に関する倫理的・哲学的な内容で、ガイドラインや法律があり遵守しなければならない部分と、人によって考え方が異なる事柄が混在していて、一般の医学科目と異なる難しい面があると思いますが、近年、重要度が増している分野です。日頃から、ニュースや情報を取り入れるなどして、生涯学習を心がけて下さい。

科目名：免疫学（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：125 配付数：125 回収数：100 回収率：80%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	3.8	3.6	3.2	3.4	3.4	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

免疫学 担当教員

免疫学は多領域にまたがり、内容的にもファジーで難しい学問領域ですので学生さんには理解がやや困難と思われれます。また専門の講座もないため多くの講座の先生方によって担当されており若干の混乱はあえて仕方ないと思います。このため、予習復習はぜひして欲しいと思います。また試験の範囲も広範ですので、今後は最後の講義で簡単な総括もしてみたいと考えています。

科目名：組織学（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：132 配付数：132 回収数：98 回収率：74.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.1	4.1	3.6	3.6	3.4	3.8	3.8

**\*評価に対するコメント**

組織学 担当教員

本科目では成績判定基準を事前に周知するとともに試験結果を詳細にわたりすべて公開し、公正で透明性の高い成績評価を心がけている。本年度は1年次で留年した学力・意欲の足りない学生が多数進級してきたためか、昨年度から総合評価点がやや下がった（昨年4.1、今年3.8）。しかしこの結果に一喜一憂することなく、来年もこの方針を変えず、この科目を運営していく予定である。

科目名：医学英語Ⅲ（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：104 回収数：97 回収率：93.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.2	4.6	4.5	3.8	4.0	4.1	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

医学英語Ⅲ 担当教員

医学英語Ⅲは、学生のみなさん全員が取り組むe-learningコースと、講師ごとに分かれて行う選択コースの組み合わせで展開しました。多くの建設的なフィードバックをありがとうございました。今後の授業計画に反映していきたいです。本年度は、江本先生が急逝したため、江本先生のクラスと三好クラスを合同で行うことになりました。選択コースに関しては、内容には満足しているというコメントがある一方で、クラスサイズをもっと縮小すべきであるという意見も寄せられました。どのようにして、積極的な授業参加を促すかという問題と関係していますので慎重に検討していきたいと考えております。

科目名：心肺病態制御医学（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：105 回収数：45 回収率：42.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	4.2	3.2	3.9	3.9	4.4	4.2

**\*評価に対するコメント**

心肺病態制御医学 担当教員

今年の学生評価はおおむね良好で、全体的満足度は4.2と、昨年の3.9と比較しても高い平均値が得られており、講師各人の講義資料の改善努力などが報われた可能性がある。一方、自由記載では、「授業内容の重複が多い」というコメントが相変わらず多く、また、「内科と外科が入り混じっていて混乱した」というようなコメントも複数寄せられていた。まず内科の講義があって、そのあと間髪を入れずに同じ疾患・領域の外科の講義が組まれるのが理想であるが、講師の都合などにより理想的な順序を維持できていない状況が学生の苦情を招いている可能性もあり、来年度の授業策定の際にはこの点に留意したい。なお、回答回収率が昨年に比べて極端に低下していることについて、改善が必要と考える。

科目名：医療概論 3（医科第 3 学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：106 回収数：84 回収率：79.2%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.7	4.4	4.0	2.9	3.8	4.1	3.9	4.1

**\*評価に対するコメント**

医療概論 3 担当教員

医療概論 3 は医療にかかわる諸課題を広く学ぶ一連の講義の一つに位置付けられ、各領域の教員によるオムニバス形式講義および演習からなる。「医療概論」全体として医療人としての素養や意欲の修得を目的とするので、「医療概論 3」全体の到達目標がわかり難いと思いますし、知識中心ではないので予習・復習もし難いと思われます。そうした項目の評価が低めである中で、科目全体の満足度が 4 を上回することは科目として一定の役割を果たせたと考えます。

科目名：整形外科学（医科第 4 学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：82 回収率：67.2%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
2.8	4.1	3.9	3.0	3.6	3.7	3.8	3.9

**\*評価に対するコメント**

整形外科学 担当教員

整形外科の小児から高齢者まで多岐に渡る病態が、限られた講義内でもある程度伝わっていることがわかる。外科系全般に共通であるが、手術などの「実感」を伝えることは、講義内では困難な部分もあり、地域患者数が多い整形外科疾患を理解する上で、実習、臨床研修と補完的に繋がる内容を目指したい。

科目名：臨床放射線学（医科第 4 学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：66 回収率：54.1%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.3	4.3	3.9	3.3	3.7	3.6	3.9	3.8

**\*評価に対するコメント**

臨床放射線学 担当教員

講義の予習をしていく余裕のないのが現状であると理解している。しかし放射線科では、限られた講義数で広範な領域の画像診断と放射線治療を扱っているため、個々の疾患自体を詳細に説明する余裕がないのが現状である。より講義の理解を深めるためにも、少しでも予習をして講義に臨んでいただくことを希望する。

科目名：麻酔・集中治療学（医科第 4 学年前期／必修）  
履修者数：123 配付数：96 回収数：68 回収率：70.8%

**\*評価結果（平均）**

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8
3.5	4.3	3.9	3.6	3.7	3.7	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

麻酔・集中治療学 担当教員

麻酔・集中治療学は、麻酔・蘇生学および救急医学の 2 講座で構成されており、主に急性期の侵襲制御に関する内容を網羅している。講義のスライドや資料をオンライン化して 2 年目になるが、依然冊子での配布を希望する声が多く、講義に対する評価も昨年より低下している事を考慮し、来年に向け検討を加えているところである。



科目名：衛生・公衆衛生（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：106 回収数：84 回収率：79.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.7	4.4	4.0	2.9	3.8	4.1	3.9	4.1

**\*評価に対するコメント**

衛生・公衆衛生 担当教員

例年、予習や復習をする割合が低くなっていますが、本科目は内容が多岐にわたり医療制度や予防・公衆衛生、環境医学・産業医学など、臨床医となっても生涯学習をしていく必要のある範囲が多く含まれています。今後は、今回の学習を発展していくことを期待しています。

科目名：腫瘍学2（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：122 回収数：64 回収率：52.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.2	3.7	3.1	3.4	3.2	3.5	3.4

**\*評価に対するコメント**

腫瘍学2 担当教員

各評価項目を分析すると、出席率が高かったことは良い点でしたが、予習・復習をしてきた学生が少ない点は問題と思われました。各講義間での内容の重複は改善がみられています。また、腫瘍学の範囲が広く、講義内容が難解であるという意見も出ていました。講義内容の理解を深めるためには、学生の自主的な勉強意欲を促す必要があると考えられました。以上の評価結果をふまえ、講義内容を網羅した当大学のオリジナルの教科書を作成中であり、さらに充実した腫瘍学講義を企画していきたいと思えます。

科目名：生殖発達医学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：123 配付数：93 回収数：64 回収率：68.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.5	4.2	4.1	3.6	3.9	3.5	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

生殖発達医学 担当教員

生殖発達医学は毎年範囲が広範すぎるという感想をいただくが、産婦人科、小児科を主体に様々な臨床科が共同で講義を行う性格上ある程度仕方がないものと考えている。全体の満足度は4.0であり本年度はそれなりに評価されたものとするが、講義の順番に関しては来年度の検討課題としたい。

科目名：法医学（医科第4学年前期／必修）  
履修者数：122 配付数：118 回収数：92 回収率：78%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.3	4.0	3.4	4.0	4.2	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

法医学 担当教員

法医学は、基礎医学の中の社会医学に位置し、実践に即して医師法を適切に理解し、屋内や屋外で亡くなっているヒトを診て、検屍（検案）ができることを目標としている。その講義が、学生に興味をもって受け入れられたことに感謝している。

科目名：看護社会論（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：58 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.8	4.2	2.9	3.9	4.2	4.5	4.5

**\*評価に対するコメント**

看護社会論 担当教員

教員が想定していた評価値と実際の値とがほぼ一致し、嬉しく思っている。毎回2コマ続きの授業で、講義とDVD鑑賞と作文演習とからなり、学生が飽きないよう工夫したつもりである。

本科目はいわゆる教養科目のひとつで、入学直後の学生が自分の具体的な将来像を思い描けるよう手助けすることを大きな目標としている。来年度までは筆者が担当し、再来年度からは、新たに着任する予定の医療社会学の専門家が担当する予定である。

科目名：情報リテラシー（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.9	4.7	4.1	2.2	3.7	3.6	3.5	3.8

**\*評価に対するコメント**

情報リテラシー 担当教員

この教科は、予習や復習を必要としない授業を行っています。そのため、問1、4の回答は低い評価値になるかもしれません。問3での回答が"4"や"5"とする履修者が74%を占めているように、とても集中して受講している印象を受けました。また出席率（問2）は非常によく熱心に勉学していました。パソコン操作に慣れない履修者もよく質問をし、じっくり取り組んでいましたので上達の様子が確認できました。レポートのグラフ作成技術についての要望が多いので、今後は更に上級の内容についても授業で展開したいと思います。

科目名：看護学概論（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：57 回収数：53 回収率：93%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.1	4.7	4.1	3.8	3.6	3.9	4.2	4.3

**\*評価に対するコメント**

看護学概論 担当教員

講義の満足度は4.3ですが、予習・復習に関する評価が低い結果でした。入学して初めて看護（学）に触れる科目ですので、主体的に学習することが期待されますが、初学者にとっては何を自主的に学べばよいのかもわかりにくいでしょう。事前学習のプリントや講義後のレポートがあれば学習はしてきている（宿題はやってくるし、授業の感想は書いてくる）ので、次年度は毎回の課題を事前に提示することを検討します。

科目名：看護基礎物理（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：53 回収数：47 回収率：88.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.2	3.5	2.4	3.0	2.9	2.9	3.2

**\*評価に対するコメント**

看護基礎物理 担当教員

総合評価（問8）は3.2で決して高いとはいえません。教員の退職に伴う指導教員の変更が少なからず影響していると考えられます。しかし、評価を詳細に分析すると、問6（難易度）と問8の評価分布に強い相関がみられます。更に、問4（復習）の評価は2.4で復習が不足しているようです。物理初学者が多いため、復習を中心に自宅学習するよう指導しているにもかかわらずです。これでは、講義内容の理解は進まず、その結果、問6の評価が下がり、それが問8の評価につながったのではと推測しています。問4の評価がせめて3前後になるよう学生に努力を促したいです。

科目名：生命科学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：61 回収数：59 回収率：96.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.1	3.6	2.8	3.2	3.5	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

生命科学 担当教員

総合評価はこの数年ほぼ一定しているが、問4～問6が例年と同様に低い。反面、学習意欲や全体的な満足度（問7～8）は前問より高く評価されている。これらの結果と具体的コメントから判断すると、学習内容に難しさはあるが、意欲的に学べる項目が多く、概ね好評であったと判断される。最終達成度を高めるため、更なる創意工夫をはかりたい。

科目名：医療史・医療哲学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：60 回収数：59 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
1.6	4.6	3.4	1.9	3.2	3.7	3.6	3.8

**\*評価に対するコメント**

医療史・医療哲学 担当教員

哲学の思考法を使って、「なぜ人は人をケアするのか」「自律を尊重するとはどういうことか」などの医学・看護学に底流するテーマについて、学生自らが考える形式の講義を展開した。ひとつの正解があるような問ではないため、発言の回数、積極性に応じて成績を判定した。難易度の高さを危惧していたが、概ね考えを深めることができていたようである。

科目名：発達心理学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：61 回収数：60 回収率：98.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.2	3.5	3.2	3.3	3.5	3.5	3.9

**\*評価に対するコメント**

発達心理学 担当教員

学生自身についての評価では、「出席」と「努力」が4.2および3.5とある程度高かったが、「予習」の評価は2.1、復習については3.2と低い評価になった。また、難易度と学習意欲についての評価はどちらも3.5という低い評価であった。これらのことから、今後は、学生に対する予習・復習の指導や、講義全体の難易度を下げる等の工夫が必要である。

一方、全体の満足度については3.9というある程度高い評価が得られた。これは、基礎心理学と発達心理学の基礎知識を精査して講義を構成したこと、講義の前半に実習形式の授業を取り入れていること、スライドやビデオを多用したこと、講義内容のプリントを毎回配布したことによるのではないかと考える。

科目名：看護化学（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：50 回収数：45 回収率：90%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.2	3.6	2.6	2.9	2.5	2.6	2.8

**\*評価に対するコメント**

看護化学 担当教員

今年の学年の特徴について気づいた点を列記します。  
・講義で提示された“言葉”を単純に記憶すればよいと誤解している。  
・新しい概念や論理、抽象化を理解すべきであることに気づいていない。  
・積極的に勉強しようとして、分からないことを質問することもなく放っておく。  
・現状認識が甘い（なんとなくかなるなどと根拠のないイメージを抱いている）。  
以上は、学年担当として入学式の翌日に皆さんに注意しましたし、講義でも言いました。しかし化学教室に質問に来た学生は少数でした。大学の勉強は高校までの勉強とは根本的に違うということ、皆さんは他の学部よりもやや忙しいスケジュールで勉強しなければいけないということを改めて認識して、これからの科目に備えて欲しいと思います。



科目名：統計学（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：58 回収数：38 回収率：65.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	4.3	3.8	3.3	3.8	3.5	3.2	3.6

**\*評価に対するコメント**

統計学 担当教員

基本的な統計的分析方法を含む、社会人(医療人)としての常識程度の数学リテラシーの習得を目的としていますが、計算、数字に対しての既得の苦手意識に個人差があったようです。

今年度からは筆記試験を実施し、その為に昨年度よりも全体評価が低くなったと考えています。

本講義を除けば、基本的な計算、数字に触れる機会が看護学科ではありませんので、責任をもって取り組みたいと思います。全体評価は「3.6」と厳しい評価をいただきましたので、授業中、フォローアップでの意見も参考にして質を高めていきます。

科目名：看護過程論（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：37 回収率：62.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
4.2	4.9	4.7	4.8	4.1	3.7	4.2	4.2

**\*評価に対するコメント**

看護過程論 担当教員

個人・グループワークともに、課外学習が多い科目ですが、各自が努力して取り組んでいました。科目難易度を示す問6が3.7であったのは、既習知識を活用してアセスメントすることの難しさを示した結果と考えます。自分で対象について考え、看護を創り出すには看護過程のスキルが必要です。事例数を増やしたほうが良いという記載がいくつかありました。追加事例を配付しましたが、自主的に学習した学生はわずかです。講義時間内で取り組めるように、次年度は調整を図ります。

科目名：疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ（授業評価を同時に実施）（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：53 回収数：28 回収率：52.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.4	3.4	3.1	3.1	3.1	2.6	2.7

**\*評価に対するコメント**

疫学Ⅰ・保健統計Ⅰ 担当教員

公衆衛生活動のツールとしての疫学的手法、保健統計手法の基本を学ぶ科目です。

公衆衛生においてこれは何か課題があるのかも・・・?と思ったときに課題を更に絞り込むための方法です。数値データを扱うため苦手な学生もいたようですが課題をこなしながら少しずつ慣れていったようです。

科目名：病態学（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：59 回収数：37 回収率：62.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.2	3.9	3.0	2.6	3.0	2.7	3.3	3.2

**\*評価に対するコメント**

病態学 担当教員

病態学(病理学)は最初に具体的な疾病に触れる科目であり以後に続く様々な疾患の診断や治療を理解する上で基礎になる学問である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。「異常」の理解には「正常」の理解が必須であり解剖、生理、生化学、微生物学の最低限の知識を整理しておく必要がある。必要最小限のことは教科書に書いてあり、講義ではそうなる根拠やさらに興味を引くような内容を紹介している。それをきっかけとしてさらに学習したり不明の部分を質問してくれることを期待しているが近年そういった学生は少なくなっているように感じる。以前は少なくとも試験前には質問に来る学生がいたがそれもなくなった。常に知的な好奇心を持ち続けることを望む。文章による説明より視覚的な資料を多用するように心がけたい。

科目名：リハビリテーション看護学（看護学科第2学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：43 回収率：74.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.0	4.2	3.3	2.7	2.9	3.1	2.9	2.8

**\*評価に対するコメント**

リハビリテーション看護学 担当教員

最後の講義時間に、これまでの講義で学んで印象に残っていることなどを書く課題を出した。何を見ても良いとしたが、見ないでも書ける内容にした。しかし、この日に実施した授業評価のコメントに「事前にいえよ、資料もってきてねーよ」というものがあった。教科書も資料もなく講義に臨んでいるということであろうか？出席率は高いが、専任教員以外の講義時に他の教科の課題や、ゲームをする学生が少なくない。教育とは難しいものである。

“A man may lead a horse to the water, but he cannot make it drink.”

科目名：保健医療福祉システム論（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：60 回収率：96.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.4	4.0	3.5	2.8	3.2	3.3	3.1	3.1

**\*評価に対するコメント**

保健医療福祉システム論 担当教員

この科目は新しい科目です。看護を学ぶ皆さんには、医療だけではなく人々の健康と生活を支えるためには福祉や財政の知識や考え方を学ぶ必要があること、また保健医療福祉が有機的につながりシステムをつくっていく役割を看護の立場で考えていただきたく立ち上げました。これは将来チームで働く皆さんにとってとても重要な内容になると思います。

各専門領域、最前線で活躍されている方々を講師に内容的にはかなりボリュームがあったと思います。内容が難しすぎて勉強が大変だったとコメントも学生からありました。わかりやすい講義を心がけたいと思いますが、ぜひ学生にも受身ではなく各先生から学びとり、統合していただくことを期待しております。

科目名：高齢者看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：44 回収率：71.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.7	4.2	4.1	3.8	3.9	3.7	4.0

**\*評価に対するコメント**

高齢者看護学Ⅱ 担当教員

総合評価は、4.0で学生はおおむね満足していたと言える。到達目標の達成は3.8とやや低いので、今後は到達目標をさらに明確にすることで達成度を高める工夫を図りたい。意欲の向上については3.7でやや低く、来年度はアクティブラーニングの機会を増やし、主体的な学習を促すようにしたい。

科目名：英語文献講読（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：52 回収数：49 回収率：94.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.9	4.1	3.2	3.3	2.7	2.5	2.1	2.2

**\*評価に対するコメント**

英語文献講読 担当教員

「英語文献講読」は、今年度より旭川医科大学が目指すグローバル化の一環として開講しました。学生の皆さんの感想からは大学生活の中で英語に触れる機会は少なく、とりわけ、医療・看護場面の英語表現は専門的で馴染み難いものだったようです。一方で、欧米・アジアの医療・看護への関心は強く、さまざまな文献講読希望が寄せられました。来年度は、皆さんが難渋する言葉の壁を越える努力と広い関心に応えるため文献講読の範囲と内容を広げ工夫したいと思います。

科目名：看護研究Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）  
履修者数：62 配付数：62 回収数：55 回収率：88.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.4	4.2	3.1	2.9	2.8	2.9	2.3	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.6	2.1	2.5	2.9	2.3	2.2

**\*評価に対するコメント**

看護研究Ⅰ 担当教員

最高学府で学んで3年目であること、「看護研究」の特徴を鑑み、能動的に考えられるような授業内容にしました。また、学部学生に適切なレベルのテキストを指定し、予習・復習にも活用できるよう配慮しました。しかし、評価から、学生諸君にはその思いが伝わらなかったことがわかりました。今後は、更に何が真、善、美であるかといった知的感性を育む学習体験・方法を意図し、1学年から学習の習慣化を図れるよう考えていきたいと思えます。

科目名：がん看護学（看護学科第3学年前期／必修）  
履修者数：62 配付数：62 回収数：51 回収率：82.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.0	4.7	3.8	3.6	3.3	3.2	3.0	2.9

**\*評価に対するコメント**

がん看護学 担当教員

「がん看護学」は今年度より1単位15コマになり、内容展開はより濃度とスピードが増しました。がん看護学の理解には、授業の予習・復習を行う学生の皆さんの積極的な姿勢が求められます。一方、学生の誰しもが将来一度は出会うがん患者事例の展開はスピード感が残るのみで学習達成感を損なったようです。今後は、みなさんの自律した学習姿勢と事例展開の工夫によって、より効率的学習を共に目指したいと思えます。

科目名：成人看護学Ⅱ（看護学科第3学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：61 回収数：54 回収率：88.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
3.6	4.4	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	4.1

**\*評価に対するコメント**

成人看護学Ⅱ 担当教員

この科目は第3学年前期に履修する科目である。内容は、3学年後期から始まる実習に向けて、特に周手術期における看護を理解することを目的として構成している。

学生の評価は、おおむね良好であった。

しかし、ほぼ單元ごとに授業前後に課題を提出させていたが、問1の予習や問4の復習・宿題をしたかの問いに対して評価点が「3.6」、「3.8」と学生の捉えは低めであった。

科目名：医療安全論（看護学科第4学年前期／必修）  
履修者数：68 配付数：68 回収数：58 回収率：85.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8
2.1	4.3	3.5	2.7	3.4	3.9	3.6	3.9

**\*評価に対するコメント**

医療安全論 担当教員

医療安全論はインフォームド・コンセントを含め、医療安全の基本的な考え方等について視聴覚教材や資料を用いて教授し、グループワークによる事例検討も実施した。

学生による授業評価は、満足度が3.9で昨年より全体的に低下しており、欠席もやや多かった。しかし、課題レポートにおいては医療における安全の重要性を強く感じ、卒業後の自身の安全に関する姿勢を述べているレポートも多くみられた。また、授業の開講時期が第4学年の臨地看護学実習がほぼ終了した時期であり、理解を深める助けになっていると考える。



## 実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）      ④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）      ② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生物学実習（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：113 配付数：113 回収数：96 回収率：85.0%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.8	4.6	4.2	4.3	4.2	4.5	4.2	4.2	4.4	4.2	4.1	3.8	4.1	4.3	4.6	4.5	4.4

### \*評価に対するコメント

基礎生物学実習 担当教員

本実習は入学して間もない時期に、顕微鏡の使用法、細胞や組織の観察、動物の解剖と発生、DNAの電気泳動といった基礎医学的なテーマをとり扱うので、本年度もほとんどの学生が興味をもって実習に参加しておりました。なお、実習内容を十分に理解できないままその実習テーマを終えることがないようにするため、これまで1回の実習で終了していた「DNAの電気泳動」の実習テーマを本年度から2回の実習に分けました。実習1回目では実験操作と実験データの取得をメインに、2回目は得られたデータの解釈とグループ内でのディスカッションの時間としました。結果として実習内容の深い理解とレポートのまとめやすさにつながったと確信しております。今後、他の実習テーマについても学生が実習内容と実験結果（観察結果）をきちんと理解したうえでレポート作成が行えるよう、実習方法の改善に努めていきたいと考えております。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年前期／必修）  
履修者数：112 配付数：111 回収数：99 回収率：89.2%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.5	4.0	4.5	4.2	4.1	3.7	3.9	4.2	4.0	3.9	3.4	3.6	4.2	4.3	4.1	4.1

### \*評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員

12年前の授業評価開始時、3.5前後だった総合評価は、ここ3年、4.1以上の評価を頂いています。この間、指導教員の大幅な変更がありました。その影響を最小限に抑えることができたものと判断できはついています。同じ実習内容にもかかわらず、問13（レポート）の評価が、昨年に比べ0.3下がりました。レポートを受け取る際、添削指導を長年実施しています。この点で、指導教員の変更が若干影響したかもしれません。来年に向けた課題です。

科目名：免疫学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：125 配付数：116 回収数：77 回収率：66.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.9	4.5	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4.2	4.3	4.1	4.3	4.1	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4

**\*評価に対するコメント**

免疫学実習 担当教員

免疫学実習は多くの講座の先生方の御尽力によって行われています。多岐に渡るテーマを取り上げていますが、総合的には4.4の評価を頂いており一応合格点ではないかと思いましたが、グループの人数に関して多すぎるといふ意見を頂きましたが、今年度の2年生が進級の関係により例年より多く在籍されていることも一因と思われる。費用やマンパワー等も加味して頂きご理解願います。

科目名：生化学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：125 配付数：121 回収数：119 回収率：98.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.8	4.6	4.4	4.6	4.4	4.6	4.3	4.4	4.6	4.4	4.2	4.0	4.0	4.3	4.5	4.5	4.2

**\*評価に対するコメント**

生化学実習 担当教員

多くの建設的なコメント（34件）に深謝致します。内訳は、カリキュラムの改善についてが11件、ゆとりのある有意義な内容だったが11件、機器・備品の不調・不足が8件と続きます。予算枠の制限はありますが、コメントを生かして最善の実習を目指し改善して参ります。一つ気になったのは「怠け者に罰を」というコメントが5件あり、これまでに無く世話好きな学年ということかも知れませんが、人のことはどうでもいい、と私は思います。ここは同じ授業料でより多くの実験実習ができて儲けたとなるべき所、今を一所懸命やって失うものは何も無いと思います。要領よく手を抜くのは一つの才能と言えるかも知れませんが、天網恢々、必ず誰かが見ています。今回は、そう君が、多分チューターも、容易き道と正しき道、諸君が医師を志した初心を反芻し、良き臨床医を目指して行って頂きたいと存じます。

科目名：組織学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：133 配付数：132 回収数：97 回収率：73.5%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.5	4.4	4.1	4.2	3.7	4.0	3.8	4.1	4.1	3.9	3.6	3.7	3.9	4.0	4.1	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

組織学実習 担当教員

組織学実習では、プレテスト、レポート、スライドテスト、出席の4つを総合して多角的な観点から成績を評価するよう心がけてきたが、受講学生の能力低下に伴い「プレテストやレポートが過重である」とのコメントが増えてきた。このようなコメントを踏まえて、来年度の本科目の評価は、試験的に、スライドテストと出席のみでシンプルに行うことを考慮中である。

科目名：骨学実習（医学科第2学年前期／必修）  
履修者数：125 配付数：76 回収数：71 回収率：93.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.0	4.9	4.6	4.3	4.5	4.1	4.5	4.2	4.1	4.3	4.2	4.4	4.4	4.4	4.2	4.4	4.4	4.4

**\*評価に対するコメント**

骨学実習 担当教員

平成26年度の骨学実習の授業評価については全質問項目において4点以上でかつ昨年度以上の点数となっていました。コーディネーターとして大変満足しているとともに関連の教員の努力、さらに学生各位の実習への真摯な態度に敬意を表するものである。学生数が多かったため骨標本がやや不足傾向にあった。この傾向は今後も続く可能性があるため次年度以降の課題としたい。

科目名：微生物学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：104 回収数：89 回収率：85.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.8	4.9	4.5	4.4	4.8	4.7	4.7	4.6	4.5	4.7	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.7	4.7	4.5

**\*評価に対するコメント**

微生物学実習 担当教員

本実習では、これまででも、実習オリエンテーションで学生諸君に「実習内容の事前確認」をするように指導してきましたが、これを確実に実践してもらうために始めた「予習レポート提出」方式が3年目となりました。その結果、評価項目1の「予習」は平均点が4.8と、ほとんど全ての学生は予習してくるようになりました。さらに、今年は、予習レポートがまとまってきたので、学生の予習ができていると考えて、実習手技等に関する説明をすこし短縮しましたが、それでも例年みられる「説明が長い」とのコメントが寄せられました。来年度は、説明をさらに短くし、デモンストレーションを長くすることを考えております。

最後に、実習全体の満足度は4.5と高く、予習の成果が出て、学生は実習にうまく集中できていたと感じました。学生諸君と教室員の協力に感謝致します。

科目名：寄生虫学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：107 回収数：104 回収率：97.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.5	4.7	4.4	4.5	4.7	4.4	4.6	4.6	4.5	4.6	4.2	4.5	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6

**\*評価に対するコメント**

寄生虫学実習 担当教員

寄生虫感染症に対する適切な診断・治療を行うには、寄生虫種の同定が必要です。従って、本実習では、寄生虫標本や病理標本の肉眼と光学顕微鏡を用いた形態観察を通し、寄生虫の形態学的特徴や病原性発現を理解してもらうことを目標としています。今年度の実習全体の満足度は4.6と高く、適切な質と量であったと思われれます。今後も、学生の知識欲を高めるような実習にしたいと考えています。

科目名：病理学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：98 回収数：41 回収率：41.8%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.2	4.9	4.6	4.6	4.8	4.4	4.6	4.5	4.6	4.5	4.3	4.3	4.1	4.3	4.5	4.5	4.6	4.4

**\*評価に対するコメント**

病理学実習実習 担当教員

今年度は改修された実習室での初めての实習であった。実習台の数と配置が大きく変わったが、幸いに、教官と学生の動きには特に支障はないようであった。天井のモニターの数が増え、実習台ごとに配置されたことにより、全員が良好な状態で画像を観察することができるようになった。また、ノート型PCを10台使用したバーチャル顕微鏡実習により、組織所見を互いに共有できるようになり、学習や指導の幅が広がった。さらに、空調設備が整い、実習環境が大幅に改善した。授業評価からは、学生は実習自体および機器・設備におおむね満足している様子がかがわれる。来年度以降、実習内容に改良を加えるとともに、バーチャル顕微鏡をより有効に利用し、さらに学習意欲を増すような病理実習にしていきたいと考えている。

科目名：生理学実習・演習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：107 回収数：61 回収率：57.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.9	4.7	4.7	4.4	4.6	4.4	4.4	4.2	4.5	4.5	4.2	4.3	3.6	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3

**\*評価に対するコメント**

生理学実習 担当教員

生理学実習・演習は、生理学を臨床的な側面からも深く理解できるように、循環・呼吸・神経病態内科、保健管理センター、臨床検査医学および脳機能医工学研究センターの協力を得て行っている。本年度も課されたレポートの量に対する評価は3.6と低く、多くの学生がレポートの量が多いと感じているとともにレポート提出期限が短いと感じている。時間が限られているために深い考察を行うことが難しいことは理解しているが、次の実習に影響がおよばないための対応であることを理解していただきたい。それでも、総合評価は4.3と昨年よりもわずかではあるが上昇した。これを励みに、来年度もさらに改善していきたい。



科目名：薬理学実習（医学科第3学年前期／必修）  
履修者数：107 配付数：102 回収数：52 回収率：51.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.9	4.6	4.6	4.7	4.6	4.8	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6

**\*評価に対するコメント**

薬理学実習 担当教員

薬理学実習は、生体に薬物を投与し、どのような作用が現れるかを実際に目で見て観察し、得られた結果から妥当な結論を考察することにより、講義で得た知識を定着させることを目的としている。予想通りの結果にならない場合もあったが、予想と違った結果から新しい知見を得ることも多いので、うまくいかなかった場合、その原因は何か？そう考えることを是非心がけて頂きたいと思う。今年の評価は、すべてにおいて高いものでした。この実習が諸君の知識定着の一助となっていれば幸いである。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）  
履修者数：61 配付数：61 回収数：51 回収率：83.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	4.8	4.6	4.4	4.4	4.3	4.4	4.1	4.4	4.5	4.1	4.1	3.4	4.1	4.4	4.4	4.0	4.3

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員

基礎看護技術学Ⅰは、看護援助に必要な技術の基礎を学ぶ科目です。概ねの評価は4.0以上で、教員も積極的かつ真面目に学習していたという印象を持っています。技術を学ぶということが初めてであり、戸惑うことが多かったと思います。その一つが提出物の量や内容だったと推測します。基本的な知識を学び、実技を習得するには相当の学習が必要です。実習室アワーやオフィスアワーを活用して積極的に学ぶよう期待します。

科目名：基礎看護技術学Ⅲ（看護学科第2学年前期／必修）  
履修者数：60 配付数：60 回収数：25 回収率：41.7%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	4.8	4.7	4.5	4.5	4.5	4.6	4.2	4.6	4.4	4.1	4.2	3.8	4.3	4.3	4.5	4.4	4.3

**\*評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅲ 担当教員

概ねの4点台の評価でありました。事前・事後課題、実習室アワーに熱心に取り組み、5回の小テストを取り入れたこともあり、授業開始前に教科書や予習内容を確認するなどの行動が見られました。その学習が継続され、必要な知識を定着させるための能動的な学習行動となっていくことを期待しています。評価の回収率が36.7%でしたので、演習企画のブラッシュアップとなる意見をもう少しいただけるように評価表の配布方法などを検討したいと考えます。

科目名：精神看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）  
履修者数：62 配付数：58 回収数：51 回収率：87.9%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.4	4.2	3.8	4.3	3.9	3.9	3.6	3.9	3.9	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.9	4.0	3.9

**\*評価に対するコメント**

精神看護学演習 担当教員

精神看護学演習は、平成24年度からのカリキュラムにおいて看護の実践力を高めるための1単位の演習科目として設置されております。本科目で演習した精神疾患を有する患者の全体像の把握と看護援助、患者との面接場面のコミュニケーションや振り返りなどの学びを精神看護学実習に活用されるよう努力していただきたいと思います。

科目名：小児看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：62 回収数：50 回収率：80.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.6	4.8	4.3	4.1	4.2	4.0	3.5	3.2	4.0	4.0	3.8	3.8	3.9	3.7	3.8	3.9	3.7	3.7

**\*評価に対するコメント**

小児看護学演習 担当教員

学生の評価は4.0前後と高く、概ね満足できていると解釈します。最も高いのは「授業への出席率」です。また、本年度から授業は教員3名で担当し、教員数は適切であるとの評価も受けました。授業への出席率は、学習への取り組みを示す一つのデータ（情報）です。今後は更に、予習や復習といった日頃の取り組み、自己学習の習慣化を意図した授業展開を進めていきたいと考えます。

科目名：成人看護学演習（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：62 配付数：61 回収数：51 回収率：83.6%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.8	4.6	4.6	4.5	4.4	4.6	4.3	4.5	4.6	4.0	4.1	3.8	4.3	4.2	4.5	4.4	4.2

**\*評価に対するコメント**

成人看護学演習 担当教員

成人看護学演習では、呼吸・代謝・腎機能等の低下した患者や緊急時・周手術期の患者などを設定し看護技術の演習や看護過程の展開を行いました。各項目の評価は、3.8～4.8と概ね高い評価が得られています。休憩時間を確保してほしいとのコメントがあったのは、演習する項目が多く、演習時間が押してしまうことがあったからと考えます。来年度は、演習項目を見直し、演習の効率があげられるような事前学習の提示などを工夫したいと考えています。

科目名：実践看護技術学Ⅰ（看護学科第3学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：49 回収率：83.1%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.5	5.0	4.7	4.6	4.5	4.6	4.5	4.3	4.5	4.6	4.3	4.2	3.8	4.4	4.3	4.5	4.5	4.4

**\*評価に対するコメント**

実践看護技術学Ⅰ 担当教員

実践看護技術学Ⅰは24カリキュラムの統合分野の新科目であり、看護実践に必要なアセスメント能力育成を目標としています。看護学科の全教員が参画し、企画運営を行いました。問13以外は4.2以上の良い評価が得られました。対象者個人だけでなく家族を、時間の経過に沿ってアセスメントする、また模擬患者を用いた演習といった工夫が積極的な学習に結びついたといえます。3年次後期に展開される臨地看護学実習に役立つことを望んでいます。

## 臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）  
④ やや思う（良い）  
③ どちらとも言えない（普通）  
② あまりそう思わない（あまり良くない）  
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：59 回収数：59 回収率：100%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	3.7	4.1	3.6	4.3	4.2	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.3

### \*評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ 担当教員

初めての臨地看護学実習は皆さんにとって看護職者を目指す意欲が高まったという評価でした。実習の満足度も高かったことがわかりました。この評価は皆さんが実習ならではの学びが得られたことを表していると感じています。この学びを忘れず、実習で出逢った患者さんや見学した看護場面を思い出し、学内の学習と関連させていきましょう。実習時期が前期試験の直前であり負担であったというコメントが多くありましたので、可能な対策を検討していきます。

科目名：在宅看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：26 回収率：44.1%

### \*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.6	3.3	3.7	4.0	4.0	4.0	4.1	3.8	4.0	4.1	3.9	3.8

### \*評価に対するコメント

在宅看護学実習 担当教員

在宅において療養者を取り巻くチームの在りようはとて多様です。特に組織を同じくしないチームが在宅では特徴的なこととして挙げられます。今回の学生評価から、「指導教員と実習指導者の連携」に少々の課題があるように読み取りました。前述した在宅におけるチームの考え方から、これは単に二者間の問題ではないと考えますので、本実習での学生諸君の個別目標の達成を含めた連携を意図していきたいと思っております。



科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：31 回収率：53.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.3	4.1	4.3	4.4	4.1	4.5

**\*評価に対するコメント**

母性看護学実習 担当教員

評価表の回収率が課題であると思います。提出することの意義を教員・学生ともに再考する必要があると考えます。評価結果については各項目安定していますが、カンファレンスのあり方については、これまで同様、今後も課題となると考えます。

科目名：小児看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：39 回収率：67.2%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	3.9	3.9	3.8	3.9	4.2	3.7	3.8

**\*評価に対するコメント**

小児看護学実習Ⅱ 担当教員

学生評価は4.0前後であり、概ね、学生にとって満足のいく実習だったと考えます。また、「問7. 受け持ち患者の看護の難易度は適切であった」についても3.9という結果でした。普段から子どもと接する機会が乏しく、受け持つのも初めての実習ですが、「看護の難易度は適切だった」という評価となり、安心しました。受け持ち患者となった子どもがどのような感想を持ったのか、学生の自己評価と一致していることを祈ります。

科目名：精神保健看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：58 回収数：24 回収率：41.4%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	4.3	4.3	4.3	4.2	4.0	4.0	3.8	4.5	4.4	3.8	4.0

**\*評価に対するコメント**

精神保健看護学実習 担当教員

精神保健看護学実習は、旭川医科大学病院（病棟・外来）及び指定就労継続支援B型事業所で行いました。実習ではこれまでの講義や演習で学んだ知識や技術を活用し、対象の有する健康問題や個性性を踏まえ、コミュニケーションや関わりを通して看護援助を学ぶことにあり、概ね当初の目標は達成されたと思われます。さらに今回の実習の学びを総合実習や今後の看護実践に活かしてほしいと思います。また、カンファレンスの方法については充実させるよう努めます。

科目名：老年看護学実習（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：9 回収率：15.3%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.4	4.7	4.4	4.3	4.7	4.8	4.2	4.7	4.9	4.4	4.1	4.7

**\*評価に対するコメント**

老年看護学実習 担当教員

すべての項目の点数は高かったが、回収率が15.3%と低く、これが代表性のある結果とは言えないので、コメントは差し控えたい。回収率を高める方策を考えたい。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：59 配付数：59 回収数：36 回収率：61.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	4.3	4.1	4.1	4.3	4.1	4.2	3.9	4.2	4.2	3.9	4.0

**\*評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱ 担当教員

成人看護学実習Ⅱは、急性期の患者を対象とした実習になります。学生は主に周手術期の患者の看護を実習しました。回収率が61%と低いですが、平均4.1ポイントと学生の評価は概ね良好でした。特に、指導者と教員の連携や説明は4.3ポイントと高くこれからも実習病棟（6階東病棟・9階東病棟）・ICU・手術部と連携をとり、学生の満足度の高い実習となるようにしていきたいと思えます。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期～第4学年前期／必修）

履修者数：10 配付数：10 回収数：9 回収率：90.0%

**\*評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.7	4.7	4.3	4.6	4.7	4.6	4.8	4.9	4.7	4.9	4.9

**\*評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅱ 担当教員

問1～問12まで4.3～4.9と大変高い評価をいただきました。

この実習は、行政の保健師が町の健康課題をどのように判断し活動しているかを理解し、住民の健康を守るための方策としての家庭訪問や健康相談、健康教育を企画、実践することでその技術を学ぶことをねらいとしています。今年度は保健師課程カリキュラムの過渡期でもあり、10人の編入生のみの実習となりました。実習場所が美瑛町、比布町、愛別町、東川町、中富良野町の5町で各町学生2人の配置であり、例年より多くの体験と指導が得られたと思います。また今年度初めて実習報告会を実施し各実習地域の課題、活動方法を共有しました。一律な支援ではなく地域特性に応じた多様な活動について意見交換を行い、実習のまとめとして成果をあげることができました。

## 「感染対策と自分を大切にすること」

保健管理センター

保健管理センターでは、ここ数年、実習学年に対して「健康管理と感染対策」についてのガイダンスを行っています。その中で、発熱などの症状でインフルエンザが、水様便の下痢などでノロウイルスによる感染性胃腸炎等が疑われる時に適用される出席停止制度「感染対策上の公休制度」について、具体的に説明を行っています。



実習学年以外の学生に対しても、機会あるごとに「健康管理徹底と感染対策の強化」について啓発活動を行っています。

ここは、医学部であり、将来医療・保健関連の仕事に従事するであろう学生たちなのですが、いくら一所懸命説明しても、流行期になると毎年のように多数の発熱者（インフル疑い）と水様便を呈した者（ノロ疑い）で、授業や実習を休まざるを得ない人が後を絶たないという状況に追い込まれます（泣）

どうして、こんなに防げないのだろうか？学生に何を伝えていけばいいのだろうか？将来大丈夫？

数年の月日が流れ、私たちは、何となく気づいていきました。学生に伝えたい大切なこと—それは、「もっと自分を大切にね。もっと自分をケアしてね」ということでした。とてもシンプルです。

「感染対策と自分を大切にすること」—この2つは、直接的には、あまり関連がないように思えます。しかし、「自分を大切にすること」は、最も基本的なことであり、一人ひとりが、自分の身体や心の声に耳を傾け、心身の状況に合わせて、タイムリーに必要なケアをできていれば、あんなに公休者が出なくて済むのになあ（ため息）と思います。

白衣を着て実習に行く時も、自分自身が感染源にならないという意味においても、自分を大切にすることは、患者さまを大切にすることでもあるのだということに気が付いてほしいと思います。

ほけかん職員もここ数年で、数名が病気を経験し、自分を大切にすることの大切さが、身に染みる今日この頃です。



## 冬季休業期間中の事故防止について

年末年始にかけては、忘年会や新年会など楽しみの多い時期ですが、外出する機会や飲酒をする機会が増えることから、事故等に巻き込まれやすい時期でもあります。学生の皆さんは、本学学生としての自覚を持ち、以下のことに注意し、有意義な年末年始を過ごしてください。

### 1. 交通事故について

凍結路面やわだちでのスリップ等、冬道の運転は危険がいっぱいです。スピードを控え、安全運転を心がけましょう。

### 2. 飲酒運転の禁止

飲酒運転は悪質な犯罪です。飲酒した人の車に同乗したり、車を運転する可能性がある人への酒類の提供や車の提供も犯罪となります。

### 3. イッキ飲み・アルハラの禁止

未成年の飲酒やイッキ飲みの強要、意図的な酔いつぶしは、非常に危険な行為であることを認識し、絶対に行わないこと。

### 4. 薬物乱用の禁止

昨今「危険ドラッグ」の乱用は大きな社会問題となっています。好奇心や誘惑から、薬物（ドラッグ）を買わない、使わない、かかわらないという強い意思を持ってください。

## 駐車場の利用マナーについて

本学駐車場を学生が利用する場合は、事前許可申請が必要であり、許可された車輛のみ有料で駐車が可能となっています。夜間・土日祝日専用のパスカードもありますので、必要な学生は購入のうえ利用してください。

1. 駐車場一時利用パスカードにより入構した後、不正な方法により料金を支払うことなくゲートを通過して出構する行為は違反行為であるとともに、大変危険です！
2. 大学中央玄関前、来学者用駐車場及び体育館・武道場近くの路上に違反駐車が増え、歩行者および車両の通行の妨げとなっています。特に冬期間においては、危険性を増すと同時に、緊急自動車の通行を妨げますので、路上駐車は絶対にしないでください！

**駐車場の不正利用に対しては厳正な対処で臨みますので、注意してください。**

## 教員の異動

H26.9.11	昇任	医学部皮膚科講座	准教授	本間	大
H26.9.11	昇任	病院小児科	講師	棚橋	祐典
H26.9.30	辞職	医学部救急医学講座	講師	角浜	孝行
H26.11.1	採用	医学部救急医学講座	准教授	岡田	基

## 今後のスケジュール

冬季休業	12月15日（月）～1月6日（火）	医学科第1学年，看護学科第1・2学年
	12月15日（月）～1月9日（金）	医学科第2学年
	12月15日（月）～1月2日（金）	医学科第3学年，看護学科第3・4学年
	12月18日（木）～1月5日（月）	医学科第4学年
	12月29日（月）～1月2日（金）	医学科第5学年

- 1月6日（火） 医学科第4学年CBT試験
- 1月16日（金） 大学入試センター試験設営
- 1月17日（土）・18日（日） 大学入試センター試験
- 1月31日（土） 医学科第4学年OSCE試験



## 第157号表紙

今月号の表紙の写真は、雪艇倶楽部(カヌー部)の皆さんが提供してくれた1枚です。  
紅葉の絶景を見ながら、のんびりとカヌーを漕ぐ。なんと、贅沢な時間でしょうか！

今後も引き続き、皆さんからの写真を募集しています。

課外活動での様子，旅先での1枚など気軽に応募してください。

ご提供いただける方は，学生支援課学生総務係までご連絡ください。

